

令和7年度普及活動アルバム

木曽農業農村支援センター

～未来につながる木曽の豊かな農業・農村と食～

第4期長野県食と農業農村振興計画の木曽地域計画に則った4つの基本目標に沿って普及活動を展開してまいりました。

「新たな品目導入による産地の活性化」を重点活動課題とし、酒米・花木の生産振興に取り組むとともに、一般活動では多様な担い手の育成・木曽ブランドを支える農畜産物の生産振興・地産地消と食農教育などの課題で一定の成果をあげることができましたのでその一部を紹介させていただきます。



【通年】重点活動

◆酒米 🍶

長野県育成の酒米「山恵錦」の生産振興は重点活動としての最終年度でした。

「山恵錦」の地元需要拡大と生産者の確保・酒米新系統の導入検討・既存酒米生産者組織の活動支援に取り組む中で、生産者と実需者による中間検討会(写真)では「山恵錦」の品質の高さが評価されました。また、栽培技術の指導により単収、1等米比率も向上しました。



【通年】重点活動

◆花木 🌸

軽量・省力的で鳥獣害も受けにくい品目としての花木の生産振興についても最終年度でした。

啓翁桜は株養成期間の短縮と花芽着生率の増加、低樹高化を図ることができました。アメリカテマリシモツケ、ノリウツギといった新規花木についても新たに栽培者が増える見込みです。

(写真：新規花木中間検討会)



【通年】

◆農業入門講座

農業の多様な担い手確保のため、農業に関心のある定年退職者や移住者等を対象に農業入門講座を開講しました。

令和7年度は8名が受講し、9回の講座開催のうち、座学の基礎講座を4回実施した他、希望者には現地視察も行いました。受講生のスキルアップのためフォローアップを継続しています。

(写真：土壌肥料の学習)



【7月】

◆電気柵設置講習会

野生鳥獣による農作物の被害は収量減少や農業者の生産意欲の減退、農地の荒廃につながります。その対策の一環として農業者、町村担当者、農業委員を広く参集し電気柵の設置講習会を開催しました。

クマ、イノシシ、サルそれぞれに対応した電気柵の効果を高めるための基本的な設置方法と適切な管理方法について学びました。



【5～9月】

◆「御嶽はくさい」の産地強化

温暖化に伴う高温障害や肥料等の資材高騰による「御嶽はくさい」安定生産への影響が懸念されています。

そこで、高温期作型における優良品種の検討や排水不良ほ場の実態調査、適正施肥量の検討などに取り組みました。特に施肥については窒素量で基肥20%減肥が可能と思われる調査結果が得られました。

(写真：9月の収穫調査)



【10月】

◆家畜防疫演習

豚熱や高病原性鳥インフルエンザといった家畜伝染病が発生した際には関係機関が一丸となった迅速な対応が必要となります。このため、町村やJA等を参集した防疫演習を実施しました。

演習では松本家畜保健衛生所と連携して集合基地の運営、防護服の着脱、防疫作業等の流れを確認できました。(写真：町村職員と集合基地の設営)



【11月】

◆リモコン草刈機実演会

水田畦畔管理が農業者の負担となっているため、大幅な省力化が期待できるリモコン草刈機の実演会を実施しました。

メーカー2社による実演会には生産者、町村等の関係機関20名以上が参集し、操作性等が体験できました。参集者の中から、1集落、1法人で導入についての検討が始まっています。(写真：40度の傾斜まで対応可能な草刈機)



【12月】

◆木曽牛給食の日

木曽は優良子牛の産地であることから、木曽優良子牛生産パワーアップ協議会として畜産業への理解増進、木曽牛肉の消費拡大のため学校栄養士会と連携し「木曽牛給食の日」を実施しています。

木曽牛に関する授業の後、木曽牛を用いた給食の献立を食べることで木曽牛への関心が深まったと思われます。(写真：福島小学校での授業風景)



【9、12月】

◆有機農業情報交換会

環境への負荷を軽減した農業、安全安心な農畜産物に対するニーズが高まる中で有機農業実践者、関心のある生産者・関係機関を参集したほ場視察や情報交換会を開催しました。

情報交換会（写真）では県内先進事例の紹介や町村による支援体制の情報提供等が行われ、参加者からは積極的に栽培上の課題や病害虫管理についての質疑がなされました。



【1月】

◆農業簿記講座

健全な農業経営にあたっては複式簿記による経営管理が必要です。令和7年度の簿記講座は6名が受講し、決算調書の作成や仕訳日記帳の記帳、総勘定元帳への転記、期末の決算処理等について学びました。日々の記帳を適切に行うことでそれぞれの経営改善に役立てることが期待されます。（写真：貸借対照表と損益計算書の構成について学ぶ）



【1月】

◆地域における農村文化の伝承事業

農村女性への活動支援として、農業や風土を背景に木曽地域に伝わる生活や伝統食を次世代に継承するための事業を行いました。

「木曽地域の農村文化を伝承するために」と題する講演会その他、農村生活マイスターによる事例発表、伝統食「笹巻き」の調理実習を行いました。

（写真：笹巻きの調理風景）